

マイクロティーチングの評価

北斗市立大野小学校
教諭 佐々木 朗

授業全体を通して感じたこと(成果)

- 指導案作りに熱心に取り組み、授業者だけではなく、グループとしての発表とすることができていた。
- 紙や、板書、コンピュータなどの活用が効果的になされていた。
- グループでの友情が深まった。

効果的だった指導技術(成果)

- 書かせること。
- 発表させること。(認め、ほめること)
- 机間巡視で、子どもの個別指導をすること。
- パソコンなど効果的かメディアの利用により、シミュレーションや映像を提供すること。
- 模造紙での工夫。
- 様々な教具
- 意外性のある授業でのゆさぶり

授業改善に向けて(課題)

- ほめること(フィードバック)
- しっかり目を見て話を聞かせること。
(子どもたちの目をみて話すこと。)
- 板書計画
- 話し方、間の取り方
- 書かせること。(プリント、ノート)
- 新しい技術を取り入れていくこと。
- 指導形態を工夫していくこと。

よりよき教師となるために

- 教師として、人間として、常に資質向上を目指し、教師力を高めていこう。
- 「現状維持は、むしろ後退である。」常に新しいことを考えていく情熱を持とう。
- 子どもと触れ合うことが大好きな教師でいよう。
- ほめる教育で子どもの力を伸ばそう。
- 保護者との連携をしっかりとっていこう。

よりよき社会人となるために

- 人に負けないものを何か一つ持とう。
- 周りから「いてほしい人」と言われる存在になろう。そのため、周囲への気配り、優しさを行動で示していこう。
- わからないことは、自分から尋ねよう。教えてくれるのを待っているのでは、人より遅れる。
- 英語とコンピュータは企業が求める必須のスキルである。

最後に

- 授業で築いた人間関係をこれからも大切にしてほしい。
- 大学時代ほど、楽できる時代はない。と同時に大学時代ほど、自分を磨ける時代はない。この4年間をどう過ごしたかで今後が決まる。
- 自分の進路を真剣に考えているか、自分に問うてみること。

おしまい